

第3章

食と農業・農村をめざす姿と施策の展開方向

- 1 基本目標
- 2 めざす姿
- 3 施策の基本方向
- 4 施策体系
- 5 農業生産構造等の目標

第1節 次代へつなぐ信州農業

- 1 次代を担う経営体の育成と人材の確保
- 2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産
- 3 需要を創出するマーケティング
- 4 作物別の生産振興の目標等

第2節 消費者とつながる信州の食

- 1 本物を味わう食と食し方の提供
- 2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

第3節 人と人がつながる信州の農村

- 1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり
- 2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持
- 3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用





1 基本目標

次代へつなぐ、笑顔あふれる信州の食と農業・農村

2 めざす姿

「食」は私たちの生活に欠かすことのできない大切なものです。

その「食」のもととなる安全で安心な農畜産物を、安定的に供給している産業が農業です。

県民生活に大きく関わっている農業・農村を、県民一人ひとりの高い意識によって守り、農業者の高い技術力、経営力、マーケティング力をもって、農業を更に発展させることにより、みんなが笑顔になり、幸せを感じて暮らせる農村をめざします。

(1) めざす農業の姿

- ・農業が県民の生活に欠かすことのできない成長性のある産業として、夢と希望にあふれる次の世代に継承されています。
- ・志の高い農業者が、本県の恵まれた気候と立地条件、高い技術力を活かし、消費者ニーズに即した高い品質の農畜産物を安定的に生産・供給することにより、県内外の多くの人から支持され、国内トップクラスの魅力ある農業が展開されています。
- ・集積・集約化された農地で、企業マインドを持った農業者が、多くの人を雇用して、高い経営力を活かしながら効率的で収益性の高い農業を展開し、地域経済をけん引しています。
- ・企業型経営体^{*1}が、障がい者や高齢者の働き場を確保したユニバーサル農業^{*2}を展開しています。
- ・オリジナル性にあふれ高い品質の県産農畜産物は、「プレミアム」、「オリジナル」、「ヘリテイジ」^{*3}の3つの厳選基準によりブランド力が向上するとともに、国内外の市場でマーケットインの販売や輸出戦略が展開されています。
- ・農業者が生産から加工・販売までを一貫して行う6次産業化に加え、農業者と食品事業者による農商工連携が展開されています。

※1 企業型経営体

従業員を雇用して生産や販売などの部門ごとに専門スタッフが配置されている経営体

※2 ユニバーサル農業

「園芸福祉」や「園芸療法」など農作業を行うことによる生きがいづくりや、高齢者・障がい者の社会参加などの効用を、農業現場に活かす取組

※3 「プレミアム」、「オリジナル」、「ヘリテイジ」

おいしい信州ふーどで位置付けられた3つの厳選基準のカテゴリ

プレミアム：信州産の食材にこだわり厳選基準に基づいた米、牛肉、日本酒、ワイン等

オリジナル：長野県で開発された品種

ヘリテイジ：伝統的又は地域固有の価値を有する伝統野菜やおやき、そば等

(2) めざす食のあり方

- ・本県で生産・加工されたの農畜産物の魅力を県民が共有するとともに、一人ひとりが自信と誇りを持って、県外や外国の方々に向かって様々な場面で発信しています。
- ・農産物直売所、量販店の直売コーナーの充実や機能強化などにより、地域で生産された農畜産物を手軽に購入できる環境が整備されています。
- ・県内のホテルや旅館、飲食店をはじめ、食材を扱う現場では、県産食材への関心が高まり、農産物直売所等との安定した取引により利用が広がっています。
- ・本県の主力農畜産物を中心に、機能性や栄養価、食べ方が県内外で広く理解されています。
- ・小中学校での食育に加え、食事を通じて食文化やマナーを教える食育の取組が家庭や地域でも展開され、健全な食生活の実践を通じて、健康で豊かな人間性が育まれています。

(3) めざす農村の姿

- ・農村に暮らす全ての方が、それぞれの出番と役割を担い、笑顔あふれる農業と生活が営まれ、生き生きと活躍しています。
- ・農地や農業水利施設等が適切に保全管理されるとともに、ため池等の防災減災対策、野生鳥獣被害の防止対策が進められ、農業者や地域住民が安心して営農や生活を継続しています。
- ・農村における共同活動に、農村での暮らしに憧れる多くの人々が参加して農村コミュニティが形成されています。
- ・都市部の住民や教育機関などと連携して、農業・農村の持つ多面的機能の維持に向けた活動が展開されています。
- ・風光明媚な景観、歴史的な水路、伝統行事などを活かした都市農村交流や、これらを観光資源として活かした「観光ツアー」などの農村ビジネスが展開されています。

3 施策の基本方向

10年後のめざす姿の実現に向けて、人口動向などの将来の社会情勢を予測して、今後5年間に於いて、「産業としての農業」、「消費者が求める食」、「暮らしの場としての農村」の3つの視点から、総合的かつ戦略的に施策を展開します。

基本方向1 次代へつなぐ信州農業【産業としての農業】

- ・将来の長野県農業の大宗を担う農業経営者の姿を明確にし、志の高い農業者の確保と経営力の向上、経営規模の拡大、新品目の導入やICTの活用、新技術への挑戦など、経営基盤を強化する取組を進めます。
- ・農業高校や農業大学など連携して、親元就農者等の就農を促進するとともに、意欲ある新規就農希望者等の支援など、担い手の確保・育成を進めます。
- ・農業経営体を支える雇用人材を安定的に確保し、更なるスキルアップを図るシステムの構築を進めます。
- ・集落営農組織については、持続的な地域農業が展開できるよう法人化を進め、中心的な役割を担う人材の育成と経営力の強化を進めます。



- ・ 本県の自然環境や立地条件を活かして、環境との調和を図りつつ、消費者ニーズに即した高品質でこだわりのある農畜産物の生産を進め、農業所得の向上を図ります。
- ・ 「プレミアム」、「オリジナル」、「ヘリテイジ」の基準を時代のニーズに合わせて拡充し、3つのカテゴリを活かした本県農畜産物のブランド力の向上を進めます。
- ・ 消費者や実需者のニーズをいち早く的確に把握し、マーケットインによる戦略的なマーケティングを展開するとともに、新たに産地側から需要を創出する取組を進めます。
- ・ 重点対象国と重点品目を設定し、商業ベースの戦略的な輸出を進めます。
- ・ 県内食品事業者等と連携して、本県農畜産物の機能性を活かした新たな需要創出や契約栽培など、6次産業化の取組を進めます。
- ・ 農業用水を安定供給するため、農業水利施設の長寿命化を進めるとともに、ほ場の大区画化や畑地かんがい施設の整備、農業用水の管理省力化等により生産性の向上を図ります。

基本方向2 消費者とつながる信州の食【消費者が求める食】

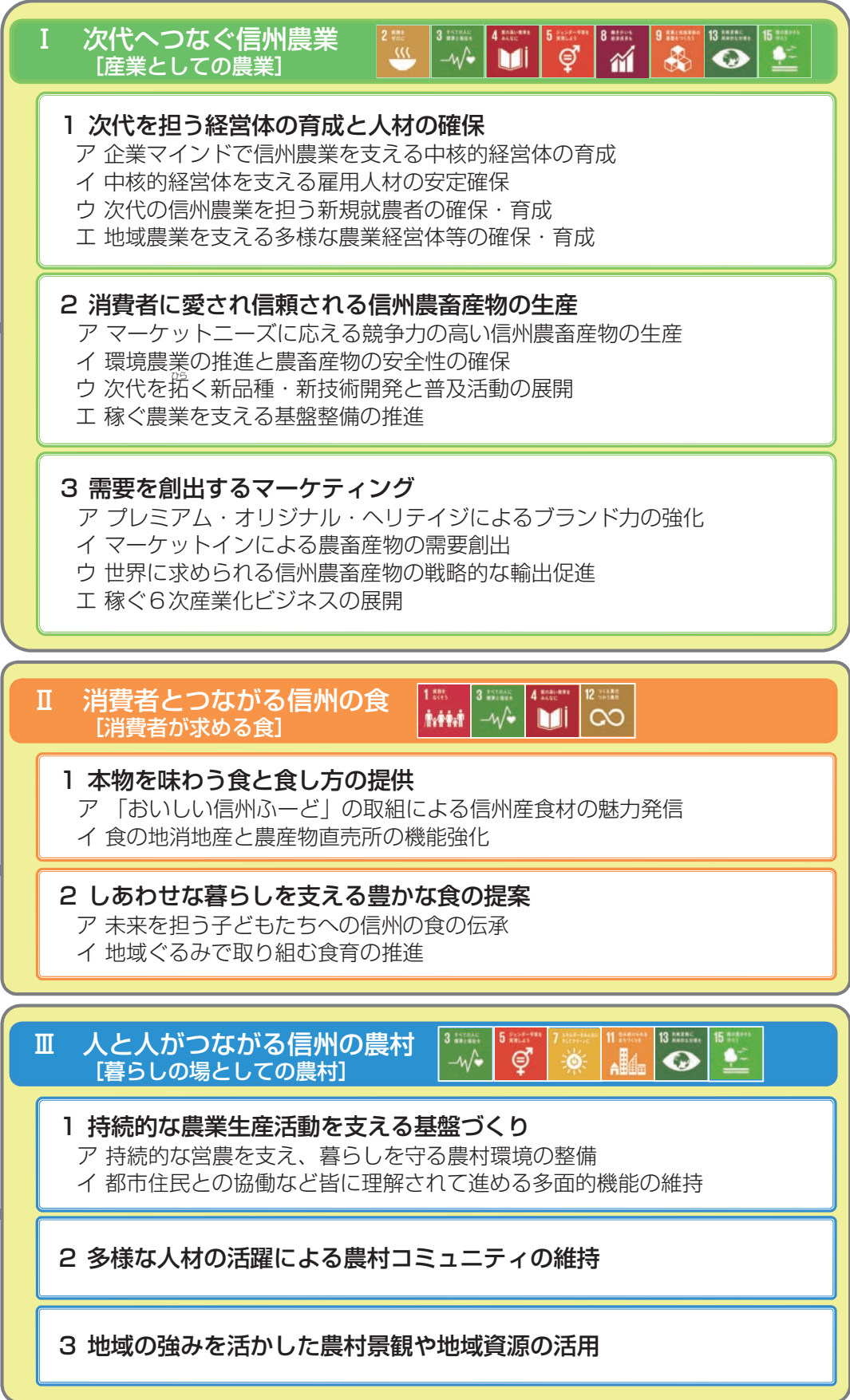
- ・ 本県農畜産物の魅力が県民に共有され、県民一人ひとりが情報発信する県民運動を展開していくため、本県産の農畜産物と農産加工品の更なる魅力向上に向けた「おいしい信州ふード」の取組を進めます。
- ・ 地域で生産された農畜産物を消費者が手軽に購入でき、ホテルや旅館、飲食店等の食材を扱う事業者などが安定的に仕入れることができる仕組みづくりを進めます。
- ・ 本県で生産される農畜産物等の機能性や栄養価、食べ方、健康との関わりなどについて、県民への理解を促進するための取組を進めます。
- ・ 「食」に関する体験や知識の習得、健全な食生活の実現、伝統的な食文化の継承などについて、信州ACE（エース）プロジェクトなどの県民運動と連携して取組を進めます。

基本方向3 人と人がつながる信州の農村【暮らしの場としての農村】

- ・ 農業水利施設の保全管理体制の強化を進めるとともに、ため池の耐震化、野生鳥獣被害の防止対策など、農村環境の整備を進めます。
- ・ 農業・農村における多面的機能の重要性について、広く県民に理解していただくための取組を強化し、県民との協働による維持活動の取組を進めます。
- ・ 自然豊かで美しい農村を更に磨き上げ、将来に引き継いでいくため、都市部からの移住者や定年帰農者など多様な人材を受け入れる環境を整備するとともに、コミュニティ活動を支援します。
- ・ 地域の実情に合わせて、地域を維持・発展させていく自主的な活動への支援を強化します。
- ・ 農村における自然環境や歴史的な農業資産、利用できる空き家や荒廃農地等を活用した都市農村交流など、農村自らの創意と工夫で行う地域の活性化に向けた取組を、関係機関・団体と連携して支援します。

4 施策体系

次代へつなぐ、
笑顔あふれる信州の食と農業・農村



5 農業生産構造等の目標

◇ 農業・農村の展望 ◇

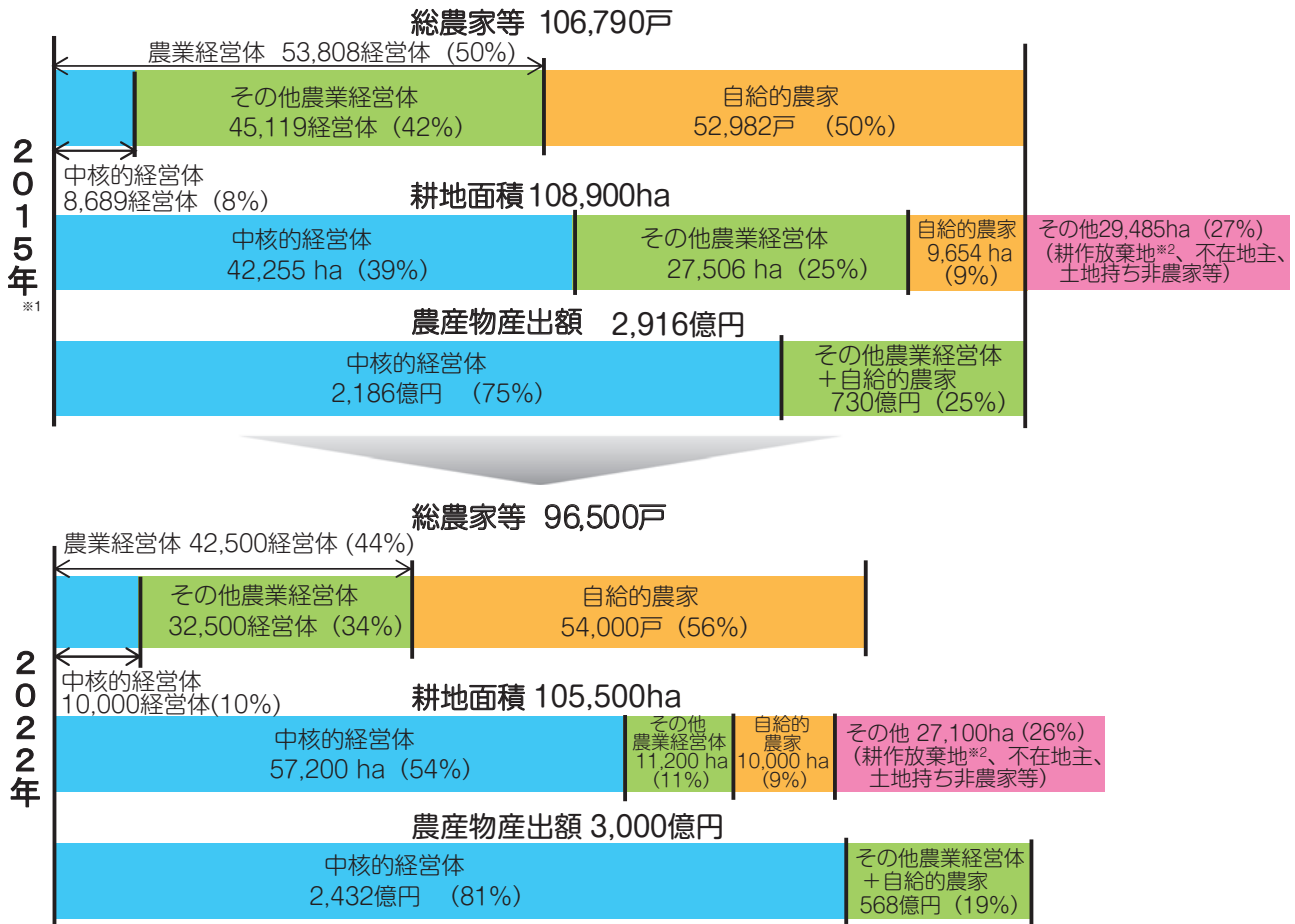
区分	単位	2005年 (実績)	2010年 (実績)	2015年 (実績)	2022年 (見通し)	2022年 /2015年
総農家戸数	戸	126,857	117,316	104,759	94,000	89.7%
販売農家	戸	74,719	62,076	51,777	40,000	77.3%
自給的農家	戸	52,138	55,240	52,982	54,000	101.9%
農業経営体	経営体	77,304	64,289	53,808	42,500	79.0%
農業就業人口	人	130,823	100,244	82,922	65,000	78.4%
基幹的農業従事者	人	88,666	83,247	73,467	62,000	84.4%
農業法人	経営体	659	762	918	1,080	117.6%
耕地面積	ha	113,600	111,200	108,900	105,500	96.9%
田	ha	57,600	55,400	54,000	51,500	95.4%
普通畑	ha	35,200	36,300	36,100	36,500	101.1%
樹園地	ha	17,100	16,200	15,500	14,500	93.5%
牧草地	ha	3,570	3,350	3,300	3,000	90.9%
耕地利用率	%	89	87	85	87	102.4%
ほ場整備率(水田)	%	50	52	54	57	105.6%
ほ場整備率(畑)	%	26	26	27	27	100.0%
畑地かんがい率	%	26	26	27	27	100.0%

◇ 食と農業・農村の経済努力目標 ◇

指標名	現状(2015年)	目標(2022年)	2022年 /2015年	
農業農村総生産額	3,118億円	3,300億円	105.8%	
農産物産出額	2,916億円	3,000億円	102.9%	
農業関連産出額	202億円	300億円	148.5%	
農業の単位面積当たり生産性	268万円/ha	284万円/ha	106.0%	
(参考) 品目別の単位面積 当たり生産性	米	127万円/ha	141万円/ha	110.9%
	果樹	380万円/ha	421万円/ha	110.6%
	野菜*	371万円/ha	369万円/ha	99.5%
	花き	2,125万円/ha	2,247万円/ha	105.7%

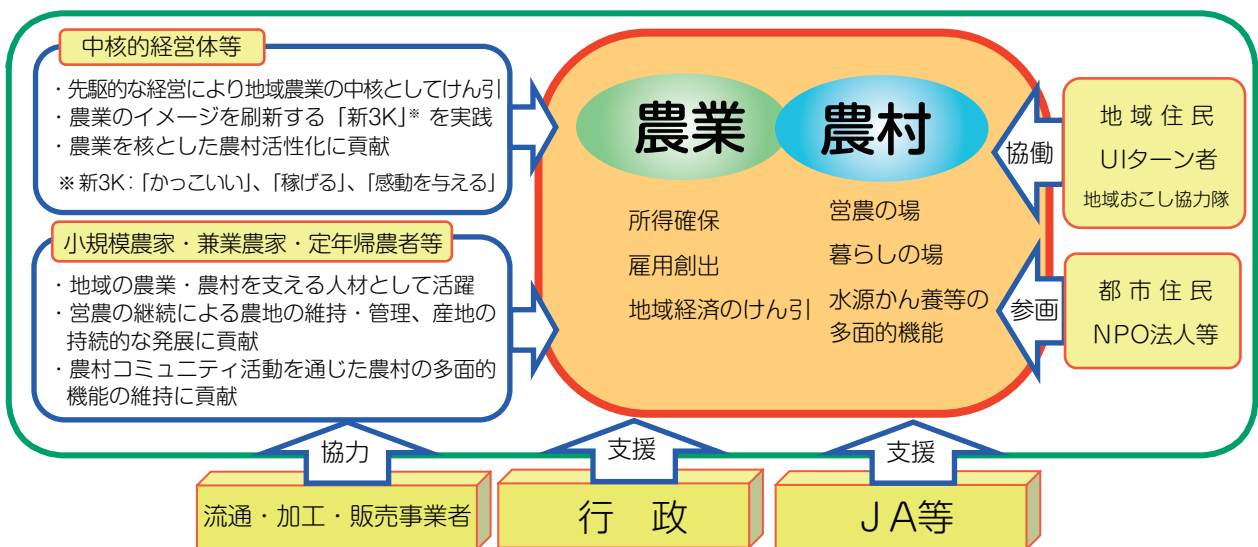
※野菜：2015年は価格が高騰し生産性が上昇したため、目標を平年単価で試算した2022年は2015年を下回る

◇ 2022年度を目標とする農業生産構造等のイメージ ◇



※1 2015農林業センサスから推計
 ※2 農林業センサスの耕作放棄地のうち、通常の農作業により営農の再開が可能な不作付の耕地。
 第4章「地域別の発展方向」で示す図においても同様。

◇ 皆で支える農業・農村のイメージ ◇



◇ 経済努力目標の内訳 ◇

● 作物別農産物産出額の努力目標

区分	現状 (2015年)			目標 (2022年)			目標/現状 (産出額) ②/①
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	①産出額 (億円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	②産出額 (億円)	
米 穀 類	42,030	215,630	439	40,870	214,217	460	104.8%
米	33,200	200,500	422	31,000	194,222	437	103.6%
麦	2,740	9,250	4	3,170	11,841	5	125.0%
大豆	2,120	3,540	7	2,300	4,282	6	85.7%
そば	3,970	2,340	6	4,400	3,872	12	200.0%
果 樹	14,665	236,350	558	14,379	242,085	605	108.4%
りんご	7,870	157,200	279	7,728	161,589	301	108.0%
ぶどう	2,400	28,300	151	2,472	29,220	185	122.2%
なし	875	16,520	43	804	16,600	40	92.1%
もも	1,120	15,900	47	1,062	16,477	41	88.0%
その他果樹	2,400	18,430	39	2,313	18,200	38	96.4%
野 菜	24,244	638,964	899	23,724	648,610	875	97.3%
レタス	5,940	191,500	306	5,856	194,444	253	82.7%
はくさい	2,760	222,300	153	2,587	214,286	125	81.7%
キャベツ	1,490	63,700	48	1,718	75,492	51	106.3%
ブロッコリー	862	8,240	33	1,101	12,159	42	127.3%
アスパラガス	971	2,390	22	1,021	3,654	36	163.6%
トマト	399	20,600	24	439	23,435	29	120.8%
きゅうり	403	14,900	34	430	17,351	40	117.6%
その他野菜	11,419	115,334	278	10,571	107,788	300	107.9%
花 き	701	174,600千本 20,870千鉢	149	712	185,516千本 24,695千鉢	160	107.4%
キク	120	32,900	15	111	33,410	17	112.6%
カーネーション	84	51,900	27	85	59,558	30	111.1%
リンドウ	33	7,500	3				
トルコギキョウ	48	12,300	14	45	12,243	16	115.9%
アルストロメリア	24	19,800	13	26	21,599	15	112.8%
シクラメン	19	2,730	13	19	2,763	12	96.0%
その他花き	373	68,340	65	426	80,638	70	108.1%
きのこ	-	156,301	496	-	161,218	505	101.8%
えのきたけ	-	81,213	193	-	85,690	187	96.9%
ぶなしめじ	-	49,864	174	-	49,983	187	107.5%
その他きのこ	-	25,224	128	-	25,545	131	102.6%
その他	-	-	67	-	-	90	134.3%
畜 産	113,600頭 1,401千羽	136,403	308	120,525頭 1,327千羽	135,883	305	99.0%
乳用牛	16,600	106,056	126	15,700	103,258	122	96.8%
肉用牛	23,000	5,548	79	22,825	6,010	78	98.7%
豚	74,000	11,158	53	82,000	12,837	59	111.3%
鶏	1,401	13,641	42	1,327	13,778	39	92.9%
その他畜産			8			8	100.0%
農産物産出額計			2,916			3,000	102.9%

※四捨五入のため、合計が一致しない場合がある

● 農業関連産出額の努力目標

(単位：億円)

区分	現状 (2015年)	目標 (2022年)	目標/現状
農業関連算出額計	202	300	148.5%
水産	50	55	110.0%
農産加工	71	145	204.2%
観光農業	81	100	123.5%

◇ 施策の達成指標 ◇

番号	項目	現状 (2016年度)	目標 (2022年度)	設定の考え方
1	中核的経営体数	8,998経営体	10,000経営体	将来にわたり本県農業生産を維持・発展させるため、次代を担い、本県農業を支える中核的経営体を確保する
2	法人経営体数及びその常雇用者数*	958経営体 ()	1,080経営体 ()	経営継承による営農の継続、経営発展等を図るため、法人経営体の育成とその経営体を支える雇用者を安定確保する
3	中核的経営体への農地の集積率	39% (2015年度)	54%	中核的経営体(担い手)における作業の効率化、低コスト化を実現するため、農地の利用集積を促進する
4	新規就農者数(45歳未満)	224人/年	250人/年	中核的経営体を安定的に確保・育成するため、新規就農者数を毎年250人以上確保する
5	集落営農組織数	327組織	350組織	将来にわたり農地を維持管理していくため、多様な農業者が相互に支え合う集落営農組織の育成及び統合を進める
6	効率的な水田農業経営を行う経営体数とその面積割合	615経営体 35.1%	800経営体 45.0%	競争力のある経営体が主体となった水田農業を推進するため、効率的な生産が可能な5ha規模以上の水田農業経営体を育成する
7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米・麦・大豆・そば)	2,000ha	3,370ha	多様化する消費者・実需者ニーズに対応するため、独自性・強みを持つ県オリジナル品種の生産を拡大する
8	果樹戦略品種等の栽培面積	1,884ha	2,826ha	既存オリジナル品種等(6品種)に加え、シナノリップ、ブドウ長果11、スモモ長果1の早期産地化を図るため、栽培面積を拡大する
9	りんご高密度植栽培・新しい化栽培面積	257ha	735ha	早期成園化・多収化を図るため、高密度植栽培等の導入面積を拡大する
10	夏秋期のレタス、はくさい、キャベツの全指定産地出荷量に占める契約割合	36.1%	40.8%	安定的な販路を確保するため、契約取引を拡大する
11	信州プレミアム牛肉の認定頭数	3,477頭/年	3,800頭/年	生産農場の拡大と、高品質化による認定率の向上を図り、認定頭数を年間50頭ずつ増やす
12	信州ブランド魚の生産量(信州サーモン・信州大王イワナ)	345t	485t	需要増に対応するため、水産試験場による稚魚供給量を増やす
13	国際水準GAP認証の取得件数	14件	42件	国際的な取引拡大への確に対応するため、国際水準GAP認証取得件数を現状の3倍に拡大する
14	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	—	44か所	農業用水を安定供給するため、基幹的農業水利施設のうち、更新整備や長寿命化が必要な重要構造物の整備を進める
15	「おいしい信州ふード」運動協賛企業・団体数	31団体	100団体	「おいしい信州ふード」運動を浸透させるため、趣旨に賛同する企業・団体数を拡大する
16	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	1,298店舗	1,600店舗	県産農畜産物の魅力向上を図るため、「おいしい信州ふード」を取扱うSHOPの登録店舗数を拡大する
17	県が主催する商談会における農業者等の成約件数	208件/年	350件/年	県産農畜産物の販路拡大を図るため、商談会での成約件数を増やす
18	県産農産物等の輸出額	5.6億円	20億円	県産農産物等の輸出額を増やすため、東南アジアを中心に需要が高い果樹・花き等の輸出量を拡大する
19	売上高1億円以上の農産物直売所数及び売上総額	52施設 151億円	60施設 200億円	食の「地消地産」の推進を図るため、農産物直売所の機能強化等により1億円以上を売り上げる施設及びその売上額を拡大する
20	学校給食における県産食材の利用割合	45.7%	48%	子どもたちの食への理解を深めるため、学校給食での県産農産物の利用割合を拡大する
21	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	40,827ha	49,800ha	農業農村の多面的機能を維持・発揮するため、地域ぐるみの協働による取組を拡大する
22	荒廃農地解消面積	991ha/年	1,000ha/年	農地の有効活用を図るため、荒廃農地の再生及び再生困難な荒廃農地の非農地判断を進める <small>※本計画から新たに非農地判断分を含める</small>
23	都市農村交流人口	624,909人/年	690,000人/年	都市住民との交流人口を増やすため、農業農村資源を活用した収穫体験など地域の創意工夫による都市農村交流を進める
24	地域おこし協力隊員の定着率	69.2%	75.0%	農村コミュニティの維持・強化に資するため、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を進める
25	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2,184kW	4,000kW	農業用水路等の維持管理費の負担軽減を図るため、農業用水を活用した小水力発電の導入を進める
26	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	—	25か所	農村の活性化を図るため、各地域2～3か所の疏水等を新たに観光資源として活用する取組を進める

※ 「法人経営体数及びその常雇用者数」のうち、「常雇用者数」については、2018年度から新たに調査を開始し、その調査結果(2017年実績)を現状値とし、目標値は、現状値等から別途設定する。